

第 1 回大田区景観まちづくり賞関連イベント実施報告

1. 第 1 回大田区景観まちづくり賞表彰式及び景観シンポジウム

○開催日時・場所等

日 時：平成 28 年 5 月 25 日（水）

場 所：大田区民ホール・アプリコ小ホール

1) 第 1 回大田区景観まちづくり賞表彰式

○プログラム

- ①開会
- ②開会あいさつ
- ③審査経過
- ④各受賞案件の表彰理由
- ⑤表彰状授与
- ⑥受賞者からのコメント
- ⑦区長講評
- ⑧受賞者記念撮影

○開会あいさつ

- ・大田区まちづくり推進部部长よりあいさつがありました。



○審査経過

- ・賞の審査を担当した景観賞専門部会部会長・野原 卓氏から審査経過を説明しました。

○各受賞案件の表彰理由

- ・審査を担当した景観賞専門部会委員が表彰理由を説明しました。



野原 卓氏

(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授)



加藤 芳夫氏

(大田区景観審議会区民委員)



荘 真木子氏

(大田区景観審議会区民委員)



杉田 早苗氏

(東京工業大学環境・社会理工学院建築学系都市・環境学コース助教)



杉山 朗子氏

(株式会社日本カラーデザイン研究所シニアコンサルタント)



平澤 芳雄氏

(大田区景観審議会区民委員)

○表彰状授与

- ・大田区長より受賞者に表彰状が授与されました。

【街並み景観部門受賞】



「桂川精螺の工場建築」
株式会社桂川精螺製作所



「ヤマトグループ 羽田クロノゲート」
ヤマト運輸株式会社・株式会社日建設計



「蓮月」
株式会社蓮月



「紅葉通り (旧同潤会の住宅分譲地)」
南雪谷自治会



「小池の風景と住宅地」
小池若者組合

【景観づくり活動部門受賞】



「洗足池及び周辺地区における
環境保護・育成活動」
公益社団法人洗足風致協会



「池上6・7丁目、東矢口周辺の
花とみどりのコミュニティ活動」
なでしこの会

○受賞者からのコメント

- ・受賞者よりコメントをいただきました。

【街並み景観部門受賞①】



受賞名：桂川精螺の工場建築

受賞者：株式会社桂川精螺製作所

大田区には、風靡な景色が多い中で、ものづくりのまちということで、私どもの工場を選んでいただき、非常にうれしく思っています。同時に、いつも働いている職場なので、とても不思議な感じがします。

鉄塔についてですが、現在創業 78 年目で、初代社長は亡くなっており、なぜこのような鉄塔を建てたのかということを知ることができませんが、社章に星がついていて、その星を目指して頑張れという意味でつくった鉄塔なのではないかと思っています。毎日、出社するときに、晴れの日でも、雨の日でもそびえ立っていて、これを見上げて頑張るという気持ちでやっています。愛着を持っていただいて、非常にうれしく思います。

下町ロケットのドラマのロケ地を選んでいただきましたが、なぜ選ばれたのかというと、単純に下町ロケットなので、形状がロケットに似ているからということと、内装を監督に見てもらいましたが、昭和のレトロな工場の感じが非常に良いということだったようです。1 点だけ注文をつけたことがあります。TBS で下町ロケットをやる前に、BS で下町ロケットを放送していました。そのときは小説と同じ設定で大田区にある町工場の設定でやっていましたが、今度は趣向を変えて、同じ下町でも例えば葛飾で、多摩川も荒川に見立ててやらせてほしいという話があったのですが、「それは待ってください、会社は 80 年近く蒲田の工業協会にも所属し、多摩川じゃなくて荒川で撮っていただくのは、とても無理です」という話をし、「大田区の町工場ということでやらせていただけるなら引き受けます」ということで引き受けました。

ものづくりということで、ねじをつくらっていた会社なのですが、時代は弱電や建築の部品など変遷し、現在は主に自動車の部品をつくらっています。自動車部品の業界は非常に競争が厳しく、これから国内だけでなく海外でもものづくりを進めていかないと厳しい状況です。簡単な品物は国内でなく海外に出ていきます。海外に出ていく中で、ものづくりのブランドが非常に大切だと思っており、大田区のものづくりのブランドは世界に通用するものだと思いますので、その名に恥じないように、景観賞を受賞したので、ものづくりでも下町ロケットのようなことを実現させていきたいと思っています。

少し長くなりましたが、このような栄えある第 1 回大田区景観まちづくり賞を受賞させていただき、誠にありがとうございました。

【街並み景観部門受賞②】



受賞名：ヤマトグループ 羽田クロノゲート

受賞者：ヤマト運輸株式会社

株式会社日建設計

本日は、大田区景観まちづくり賞の受賞、誠にありがとうございます。我々の施設は、大田区の羽田旭町にあり、羽田の立地を生かした陸・海・空のスピード輸送ネットワークと、高付加価値の機能を有した7階建ての物流施設となっています。

羽田クロノゲートという名前の由来ですが、1つはギリシャ神話に出てくる時空をつかさどる神様・クロノスと、アジアと日本をつなぐ玄関口のゲートウェイ、この2つに由来しています。

平成25年9月に竣工し、今年で3年目を迎えています。

羽田クロノゲートは、事務棟、物流棟、「和の里」と呼ばれる地域貢献ゾーンの3つから成り立っております。特に「和の里」と呼ばれるゾーンは、地域の方によくご利用していただいております。我々のグループ会社が運営しているカフェ、託児所、体育館があり、地域との共生を目指しています。

また、建物各棟は、和をもってつながるというメッセージを込めて、全て円形のデザインになっています。また、「和の里」の中には、敷地の緑化にも積極的に取り組んでおり、里山や噴水があり、これから暑くなってくるので、近くの子どもたちが遊びに来る時期になるのではないかと考えています。

羽田クロノゲートには、無料の見学者コースがあります。予約制ですので、インターネットや電話での申込は可能ですが、私に言ってもらえれば、担当部署との窓口になって交渉しますので、今日お集まりの皆様の中で、ご覧になっていない方がいらっしゃいましたら、ぜひ、我々の施設にお越しいただきたいと思っています。

本日は、受賞、どうもありがとうございました。

【街並み景観部門受賞③】



受賞名：蓮月

受賞者：株式会社蓮月

大田区景観まちづくり賞受賞、ありがとうございます。

昨年の4月に「古民家を残してほしい、蓮月という場所を残してほしい」という言葉をいただき、ふらふらと団体の集まりに行き、無知のまま「やります」と言ったのが始まりです。建物を残すのは大変で、色々な方々の力をもらい、みんなの力を合わせて今の形をつくっていくことになりました。

基本的には地域の主婦たちがメインとなって、天井裏に上り、2cm ぐらい積もったほこりを落とすことから始まって、壁、柱を一つ一つ磨き、そしてカフェにしていきました。そうした過程の中で、やはり、家が生み出すもの、力、それを残そうという想いが、人と人をつないでいくという、家族としてあるべき心が一緒にスタッフとやる中で、どんどん芽生えていきました。

今に至るまで、何度もけんかもしましたし、悩み、苦しみ、何度も笑い、それをずっと繰り返して、今、蓮月を運営しています。こういう賞をいただき、僕たちは本当にうれしいです。

89年間、ずっとあるということがすごく当たり前の風景だと思いますが、その当たり前がすごく幸せなのが日常だと思います。やはり、僕たち自身が蓮月という建物でもらった心のつながりを、蓮月という場に皆さんに来ていただいて、色々なつながりをつくってほしいと思っています。大田区のみならず、世界に向けて僕たちは蓮月を背負って頑張っていこうと思いますので、皆さんもぜひコーヒーを飲みに来てください。

今日は受賞、ありがとうございました。

【街並み景観部門受賞④】



受賞名：紅葉通り（旧同潤会の住宅分譲地）

受賞者：南雪谷自治会

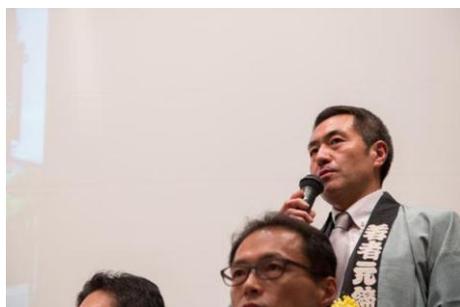
受賞ありがとうございます。

私は、このまちに住んで、今、70歳なのですが、受賞した道路は「もみじが丘」という通りになっていますが、これは私が育った学校の歌の1小節に歌われています。その意味がよく分からなかったのですが、ある程度の年齢になって、まちを歩くようになってから、存在に気づき、最近は防犯パトロールで歩き、大人になってやっと景色が分かるようになってきました。大田区景観まちづくり賞があるということを聞き、ここが良いので推薦しないかという話をもらい、推薦してもらいました。そうしたら、ありがたいことに選ばれて、この賞をいただきました。

これからはもっと子供たちにも伝えて、大事に町会として育てていきたい、見守っていきたく思いますので、これからもよろしくお願いします。

色々ありがとうございました。お世話になりました。

【街並み景観部門受賞⑤】



受賞名：小池の風景と住宅地

受賞者：小池若者組合

本日は大田区景観まちづくり賞をいただきまして、本当にありがとうございました。

平成20年4月12日に小池公園のオープニングセレモニーが盛大に行われました。小池若者組合は、そのオープニングセレモニーへの協力を契機に、翌年の4月の第1土曜日から小池公園春まつりを開催し、今年で第7回を迎えました。素晴らしい自然環境の小池公園、取り巻く住宅地、好環境での小池公園春まつりを通じて、地域の大人から子どもたちまで、交流と絆づくりを今後も継続していきたいと思っています。

本日は誠にありがとうございました。

【景観づくり活動部門受賞①】



受賞名：洗足池及び周辺地区における
環境保護・育成活動

受賞者：公益社団法人洗足風致協会

今回は第1回の栄えある景観まちづくり賞をいただきました。本当にありがとうございます。

洗足風致協会は、洗足の風致を守るための団体です。大田区と地域の方々と協力しながら、洗足の風致を守っていくために、私たちは本当に洗足池を愛することでは他の皆さんにも負けないような情熱をもって活動しております。

洗足池の前に歩道橋がありますが、歩道橋がどう見ても風致にそぐわない。洗足池駅から見たら、歩道橋があって、池が全然見えないので、区にお願いし、東京都とかけ合い、地元から嘆願書を出し、歩道橋を取り払って、きれいな景観の良い場所にできるのではないかと考えています。それに合わせて、風致協会でも色々なアイデアを皆さんと一緒に考えていけたら良いと思っています。

また、小池小学校の校歌に、「ひじりのゆかりのいくとこしえに」とあるのですが、「ひじり」というのは何なのか、まだ私は分かっていません。日蓮上人が足を洗ったといういわれと、それから勝海舟が住み、現在、墓所になっているので、「ひじり」というのは、その方々のことかと思っています。

近くには鳳凰閣という勝海舟ゆかりの建物がありますが、それを大田区で買ってもらいました。現在、勝海舟の記念館にするために動いてもらっています。整備されれば、ますます洗足池も皆さんに愛される土地になってくるのではないかと思います。

風致協会は、大田区ではできない活動、そういうところで風致に関わる協力がしていけたら良いと思っています。これからも皆さんの意見を伺いながらやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【景観づくり活動部門受賞②】



受賞名：池上6・7丁目、東矢口周辺の
花とみどりのコミュニティ活動
受賞者：なでしこの会

名もない、お金もない、歴史もない、なでしこの会が受賞したということを本当にうれしく思います。審査員が活動している会員の心を感じてくださったのではないかと私は自負しております。

草むらがたくさんあった600mくらいの歩道に花を植えてきれいにしています。そうすると、歩行者がとても感謝してくれます。それで私たちの労をねぎらってもらえます。

私たちには3つの目的があります。花をきれいに植えるということ、私たちが年を取っても元気で介護保険の世話にならないということ、地域のコミュニティの発展に努め、地域の人たちと仲良くしていこうということで、色々な人たちと接するように活動を考えております。

4月からは新しい取組として、高齢者が草むしりはできないけれど、何か色々役に立つことができたなら良いという心を育てようと思い、私の家の昔の応接間を利用した集まりを行いました。そこでも色々な意見が出ていますので、お年寄りがお世話になるだけではなくて、どんな小さなことでも隣人の役に立てたら良いという前向きな心を育てていけたら良いということが、私たちの願いの一つになっています。

これからも元気でやっていきますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○区長講評

- ・大田区長より講評がありました。



大田区長 松原忠義

皆様、おめでとうございます。

第1回ですから、大変貴重な方々だと思います。

和辻哲郎さんの「風土」という本がありますが、その本に和辻さんが日本国中を歩いて、色々なまちの風土、それから、同時に世界中を歩いて、色々世界のまちを歩いて、そこに住む人たちとの共存を非常に的確に書いている本があります。

私もそれを見ていて、大田区も色々あるのですが、大田区にいながら大田区のことを意外と知られていないというのが、区長になっての実感でございます。

大田区では写真コンテストを実施し、大田区の一年間の事業がありますが、その事業を皆さんに撮っていただいています。風景も撮っていただいているところですが、今回、景観賞ができ、より一層地域に愛着を感じてくださるのではないかと思います。

私たちが何げなく住んでいる中に、とても大事なものがたくさんあると思います。それが景観だと思います。そういった意味では、景観が地域ごとのランドマークにもなっているのだと思います。審査員と受賞者のお話と完全に一致していましたので、これがとても印象的でした。選ぶだけじゃなくて、選ばれた側と非常に一致した形の中で景観がつけられていくというのがとても良いと思いました。

今回は受賞数が7ということですが、応募が約90通あったということなので、その90通の内容がどんなものなのかということは、私も気になっているのですが、結構色々なものがあったのだと思います。そういった意味では、第1回の価値がすごくあったのではないかと思います。

ちょうど桂川精螺さんの社長さんと、前の会で一緒でした。よろしく言っておりました。

ヤマトさんは、昨日、羽田ヴィッキーズ（プロバスケットボールチーム）の会があり、頑張ってくださいますが、500名ぐらいの人が集まっていました。そこでも勇気をいただきました。

蓮月さんは、池上が地元で住んでいますので、色々新しい形でお店をやっていたいて、今度は、「ふきげんな過去」という小泉今日子さんが出る映画に出るようです。半分ぐらい撮影現場になるということなので、楽しみにしています。封切りはこれからです。ぜひ、皆さんも、見ていただければありがたいと思います。ぜひ頑張ってくださいよう期待しております。

同潤会で南雪谷はすごく良いところです。田園調布も良いですが、南雪谷もとても良いところです。紅葉が非常にあって有名などころです。新たに見直してもらったという感じもします。

小池も本当に良いところで、勝海舟の洗足池と小池はつながっていて、親子みたいなところで、夫婦の池と言っても良いぐらいですが、洗足池と小池が2つの対になっていて、非常に珍しいところですので、ぜひ、守っていただければと思います。

なでしこの会ですが、私は池上に住んでいるので分かりますが、活動場所が結構長いです。区で手入れをするのですが、とても手が回らないので、地域の方が一緒に守っていただけるというのは、とても良いことで、これがヒントになって、現在、大田区は18の出張所で18のまちづくりを行っています。ここがヒントになっています。他の団体もありますが、そういうことを定期的にやって、皆さんの生きがいと、それから見ている側の楽しさ、癒やしが一緒になっているということだと思います。

そういった意味では、今日は第1回として皆さんに参加してもらい、とても良かったと思います。大田区もちょっとした、ほっとした癒しの空間なども大事なまちづくりの一環だと思っております。

ぜひともこれからも地域のために、また、区民の皆さんのために頑張っていただければと思います。

また、中井先生をはじめ審査員の皆さま、ありがとうございました。大変良い指摘等をいただき、素晴らしい第1回目を飾ることができたと思っています。

大田区としても、これから大事な景観を守りながら、良いまちをつくっていきたいと思います。関係者の皆さんに心から厚く感謝と御礼を申し上げて、ご挨拶にかえさせていただきます。

本日は大変おめでとうございました。ありがとうございました。

○受賞者記念撮影

【街並み景観部門受賞】



「桂川精螺の工場建築」
株式会社桂川精螺製作所



「ヤマトグループ 羽田クロノゲート」
ヤマト運輸株式会社・株式会社日建設計



「蓮月」
株式会社蓮月



「紅葉通り（旧同潤会の住宅分譲地）」
南雪谷自治会



「小池の風景と住宅地」
小池若者組合

【景観づくり活動部門受賞】



「洗足池及び周辺地区における
環境保護・育成活動」
公益社団法人洗足風致協会



「池上6・7丁目、東矢口周辺の
花とみどりのコミュニティ活動」
なでしこの会

2) パネルディスカッション「今後の景観まちづくりへの期待 ～賞の審査を踏まえて～」

(1) パネルディスカッション

○プログラム

- ①パネラー紹介
- ②趣旨説明
- ③ディスカッション
- ④質疑応答
- ⑤総括

○登壇者（写真は2ページに掲載）

〈コーディネーター〉

野原 卓氏（横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授）

〈パネリスト（五十音順）〉

加藤 芳夫氏（大田区景観審議会区民委員）

荘 真木子氏（大田区景観審議会区民委員）

杉田 早苗氏（東京工業大学環境・社会理工学院建築学系都市・環境学コース助教）

杉山 朗子氏（株式会社日本カラーデザイン研究所シニアコンサルタント）

平澤 芳雄氏（大田区景観審議会区民委員）



○趣旨説明

(野原氏)

- ・大田区は、平成 25 年 10 月に大田区景観計画を策定し、運用を始め 2 年半が経ちます。大田区景観審議会でも景観に関する議論を 2 年半重ねてまいりました。

日本で景観の取組が非常に増えてきたのは、1960 年代から 1970 年代の高度経済成長期です。景観の取組が少しずつ見え始め、それぞれの自治体が景観条例をつくり、地域が独自の取組を進めてきました。12 年前の平成 16 年に景観法が制定され、国全体としても少し支援していく形ができました。

景観法をきっかけにして、景観の取組が増えてきた流れの中で、大田区は、少し後発で、大田区景観計画を策定し、様々な取組を俯瞰しながら、具体的な景観の施策を実施してきました。景観の取組というと、行政における計画の策定や条例の制定など、色々な景観のルールを使いながら、全体の調和を図る取組を中心に行われることが多いと思います。行政の景観施策として行う場合、課題のある景観の改善や規制ということに腐心することが多く、これはこれで、非常に難しい、丁寧、かつ時間のかかる取組であり、こういったことも重要ですが、一方で、本当に景観を良くしようと思うと、関わられている皆さんが、ある意味、自発的に、少し創造的に楽しんだり、工夫をして景観をつくったりしていくという活動が育まれていかないと、みんなが良いと思える景観づくりはなかなかやっつけられないと思っています。その中で、今回実施しました、「大田区景観まちづくり賞」は、皆さんが自発的、あるいは創造的に魅力ある風景を、ネガティブではなく、ポジティブにみんなで祝い、表彰していくことで、より魅力的、創造的で景観をより高めていくような景観形成ができないかということで始めました。

実施する側としては、第 1 回でどの程度の応募があるか心配でしたが、街並み景観部門 72 通、景観づくり活動部門 18 通の応募があり、大田区で非常に多彩な取組、活動が展開されていることを再認識することができました。そういう意味では、ここにおられる皆さんも大田区での景観まちづくり賞ということで、賞の選定にご協力いただきました。景観まちづくり賞を通じて景観を考えていくというのは大田区では初めてだったわけですが、審査員の立場から景観まちづくり賞を通じての感想から聞いていきたいと思っています。景観まちづくり賞への感想、あるいは、そこで得た大田の景観に関する新たな発見、再認識した点など、そういったところも含めて、聞いていきたいと思っています。

○パネルディスカッションの概要

〈景観まちづくり賞で感じた感想〉

(杉田氏)

- ・景観賞の審査に関わることは初めてでしたが、今回改めて感じたことが 2 つあります。1 つは、景観づくり活動部門で活動団体に対して、活動目的、活動内容、活動への想いをヒアリングしたのですが、単純にその場所を見ている以上の魅力が見えてきて、ヒアリングした後では、見えてくる景色が違うということを改めて感じました。それまでも、景観はハードだけではないと感じていましたが、今回強くそれを思いました。景観をつくる上での背景となるような、物語みみたいなものが景観の価値を高める大きな役割を果たすのではないかと思いました。

そういった意味では、例えば、今回の景観まちづくり賞でも、写真だけを載せるのではなくて、その景観が形成されていく上で、どういう人が関わり、どういう想いを持って、どんな活動をしてきたのかということセットで伝えていくと、より景観の価値を伝えていくことができるのではないかと思います。

それから、もう1つは今回残念ながら受賞に至らなかった応募作品がありますが、その中で、例えば祭りの風景や電車が通るような風景など、動的な風景の応募もありました。そういったものをこれからどんなふうと考えていけば良いのかということ、答えは今ないですが、考えさせられました。

ハードだけではなく、ソフトの魅力も大事だと考えていくと、常に恒常的にある風景だけではなくて、一時的に発生するような風景をこれからどんなふうと考えていけば良いのかと感じました。

(野原氏)

- ・動的風景を評価の対象にすべきと思いますか。

(杉田氏)

- ・評価の対象にすべきと考えていますが、場所とのセットになっていなければ、なかなか評価が難しいと思っています。例えば、祭りであれば、同じような場所で毎年開催するような風景がその場所に表れるのであれば、評価の対象にしても良いと思います。

(加藤氏)

- ・どの程度応募があるのか心配していたが、予想を超える反響があり、良かったです。特に良かった点は、思いもよらぬ身近で地道な活動の応募もあり景観に対する関心も高く、多数の皆さんが応募をされたことです。

また、「こんなところをこういうふうに見たら、こういういいものがあるんだ」という新しい生活視点での発見もありました。応募書類のアピールポイントには多様な見方があり、地域ごとに愛着ある色々な宝が存在することを感じました。

街並み景観部門を受賞した「小池の風景と住宅地」もそのひとつです。小池や周辺の景観は素晴らしい、もっと多くの人に知ってもらいたいという推薦者の情熱が伝わり、通常では感じ取れない新たな発見をさせてもらいました。

2つ目は残念に思ったことです。大田区景観計画では景観形成重点地区に指定されたひとつに呑川景観形成重点地区がありますが、残念ながらそれに関する応募がありませんでした。大田区の中心を流れる呑川は、もっともっと関心を持って良くしてことが重要です。

また、多摩川も数件の応募はありましたが、応募資料でのアピールがちょっと弱かったように思います。区として重点的に景観形成を進めていく場所に関する応募が少なかったので、今後の行政施策の課題の1つだと思います。

(荘氏)

- ・大田区は東西に広く、一括りにできない景観の豊富さを改めて感じました。地形的にも小高い台地や坂道があって、一方で平らな海に近いところがあって、そして大きな川もあって、緑もあって、埋立地もあってと、産業地帯、工業地帯もあれば商業地、住宅地、あるいは歴史、伝統のある地域もあり、そして大きな交通網が区内を横切っています。今回の景観賞の推薦のポイントの1つに「大田区らしい魅力が感じられる」とありましたが、一括りにはできず非常に幅広く、間口も色々あるというバラエティの現れ自体も大きな魅力

ではないかと感じています。

そういった中で審査の過程では、例えば、建築物なら建築物だけ、緑なら緑だけということだけでは必ずしもなく、周辺環境とどう関わり合っているか、どういうふうに周囲の環境になじんでいるか、あるいは、一つの方向や方角からだけではなく、別の方向や別の高さから見たらどうなのか、また、公共性にどう配慮しているのか、どんな工夫をしているのかなど、そういった見方、景観ならではの視点を持ちながら、他の委員と検討を進められたことが非常に良かったと思っています。

あわせて、景観ですので、眺める側、その景観を眺めて感じる側の心持ちとして、その眺めというのはどう映るのか、そんなことも想像しながら審査に関われたことは良い経験になりました。

最後に、今回、受賞には至らなかったのですが、大田区は国道、都道を始め幹線道路も何本も南北や東西に通り、鉄道もJR在来線、新幹線、私鉄とあり、さらに航空路の入口と出口でもあるということで、縦横無尽に走る交通網にまつわる眺めや景観、あるいは交通網を使って移動しているところから見た大田区の景観や眺めという視点もあるのではないかと思います。交通網にまつわる景観の存在感も非常に大きいので、大田区在住・在勤・在学の人々だけではなく、区を通行・通過する人々からも眺められている、そういった視点からどうなのかということも今後は少し考えていけると良いと思います。大田区の景観は通行者、通過者にも色々な意味でさらされていると、今回、改めて感じました。

(野原氏)

- ・ 荘委員は大田区景観計画策定時の委員でもありましたが、この数年で大田区の景観の見方に変化はありましたか。

(荘氏)

- ・ 以前はあまりに知らなかったということは感じています。知るということは、興味を持つ、大事にするための第一歩で、人は知らないものを過小評価しがちなところがありますので、知るということは非常に大事であり、今回の景観賞もそういった役割を果たし得るものではないかと思っています。

(平澤氏)

- ・ 建築設計の仕事に従事しているため、審査される側になることもありますが、今回、初めて審査を経験しました。私は団塊世代ですが、戦後アメリカやヨーロッパに追いつけ追い越せの働き蜂で一生懸命やってきて、景観どころではなかったです。公害など色々なことがあって、少し身の回りを振り返ることができて、景観が注目されてきたと思います。今、そういう世の中になってきたところに景観賞の創設があったと思っています。

今回、広範な応募があり、審査基準をどこに置くかによって、とても評価が違ってくる。また、審査項目がいくつかあっても、一つの項目の重さをどのぐらいに置くかということによってもとても違ってきます。

最終的には、景観は五感に訴えるものだと思います。誰もがこれは良いというものが、まず大枠であって、後は理由を聞くなどし納得するということがあると思います。

今回は洗足池のホテルを復活させる取組がかなり魅力的で賛同しましたが、ヒアリングで聞いてみると、風致協会は東京都で唯一残った風致協会でも今も続いていて、長い間守ってきた経営方針などを守ろうとする気持ちが見えてきて、さらに深く理解できました。なで

しこの会も自然体で長続きさせようという意識がヒアリングで初めて分かって、応募書類だけではなかなか理解できないことがありました。残念ながら、書類審査があるため、評価されないものもあるので、それがちょっと残念だと思いました。

景観は写真や文章が上手な人が良い点数をとれるというわけじゃなくて、やっぱり現場へ行って、良いものを肌で感じる必要があると思います、なるべく現場審査に重きを置くようお願いしてきました。

(野原氏)

- ・審査される側になることもあるということですが、応募に向けて審査される側に対するアドバイスはあるでしょうか。

(平澤氏)

- ・逆に言うと、審査員は、審査されていると思います。審査員が選んだ物件はこうなのか、だから我々も過去に応募した建築がありますが、やっぱり審査員の方がこういうメンバーだよという、その審査員に通りそうなプランをやってみようかななんて卑近に思ったことがありましたけれども、やっぱり審査する側も審査されているんだなというのは感じます。

(杉山氏)

- ・他の自治体での景観賞に参加したことはありますが、立ち上げに携わったのは初めてでした。今回の結果をフェイスブック等で見ていると、景観に関係する人の評価として、「すごく玄人好みの渋い事例を選んでいる」という感想がありました。また、受賞者の皆さんの感想を聞くと、少しは大田区らしい景観を発信できたところとちょっと安心しました。大田区の景観は、東京都内では群を抜いて多様性に富んでいると思います。他の区ですと、どちらかという新しい建物が良い、あるいは自然が豊富など、一定の傾向を持っているところが多いです。それに比べると、海から川、そして台地が上がって行って、崖線もあるし、非常に面白い地形があり、歴史的にも本当に新旧様々な魅力に富んでいます。そのため、例えば、住宅地、倉庫、物流地点、空港付近、多摩川など、受賞数をたくさん増やしたかったです。今回は、そういった様々な魅力ある大田区の一部しか見せられなかったことが少し残念であると思っています。一方で、代表的なものが選ばれたので良かったと思います。まだまだ大田区の景観の魅力はあるので、今日来ていただいた方も、もっとこういうところがあるということ、情報交換させていただいたら良いと思っています。

(野原氏)

- ・玄人好みという言葉、審査員も審査されているというお話がありましたが、今回の受賞結果から大田区らしい景観が選定されているかどうか、若干不安に思っていることも無きにしも非ずですが、非常にバラエティと特徴に富んだ受賞だったと思っています。こういう景観の賞ですと、例えば、新しくできた大きな開発のビル群、そこでやられている工夫があるところなど、特徴が各自自治体であるところが多いですが、そういう意味で幅広い風景、多様性といった言葉が出てきたのではないかと思っています。今回残念ながら受賞までは至らなかったものに関しても、大田区には多様な風景があると思いました。

例えば、ものづくりのまちであるというお話もありましたが、工場景観、町工場の景観がいくつか応募され、その中で、これから町工場がどのように頑張っていくのかということ、建物を表現していたものもありました。最近、大田区では工場の数が減少し、なくなっ

ていて、その後一般的な建売住宅、小さい戸建住宅になることが多く、残念ながら、特徴的とまではいえない風景に変容しています。その中でこれからどう次世代に今あるものづくり、風景を受け継いでいくかということに挑戦されていました。

それ以外にも、例えば、戦後のモダニズム、近代主義的な時にできた戸建住宅が多いということが分かりました。1950、1960年代に建築家が大田区を非常に魅力ある場所として選び、実験的な取組を行っているというものです。地域の小さな文化財と言え、文化財で指定されるほど立派とまでは言えないが、地域では非常に大事だと言われるようなものを応募していただいた事例もありました。

あるいは、緑、邸宅の庭なども応募がありました。こういう時代の中で、庭も新しくマンションにするなど失われていくことがあります。緑をうまく残しながら、かつ、ちょっと新しくし、それをどうやって維持していくかということで、色々な取組で、工夫、回復、保全といった事例も多く見られました。

その他、河川、道路、堤の堤防などの土木構造物が、実は大田区の中で非常に景観的にも大きな位置を占めているということが分かる応募もありました。

なかなか普段接している皆さんだからこそ気づかないものがたくさんあるのではないかと思います。今回、改めて見てみると、毎日通っていたんだけど、そういった目で見ていなかった、あるいは、今回の受賞となったものをそういう目でもう一回見直してみると、色々なものが掘り起こされてくるのではないかかと思います。そういう意味では、非常に有意義だったと思います。

〈今後の大田区の景観まちづくりへの期待〉

(杉田氏)

・1 つ目に、先ほど受賞者から、日常的な風景で、自分たちは価値に気づいていなかったというようなお話がありましたが、受賞によって価値を見直すきっかけになる可能性があるということを感じました。気がついた価値を、自分たちで大事にしていくというのはもちろんですが、ぜひ、その価値を発信し、景観づくりを盛り上げていく先導役を担ってほしいと思います。

2 つ目です。特に景観づくり活動部門の方ですが、一般的に言われるまちづくりとどういふところが大きく違うのかを考えてみると、特定の場所に対して継続的な働きかけをしていく、その場所に手を入れ、環境を育てていくところが大きく違うと思います。その環境を育てるハードをつくっていったり、保全したりという活動を通じて、その場所を大切に思う人々やネットワークを育てていくということが起こっていることが景観づくり活動部門の表彰対象になると感じます。そう思うと、景観まちづくりを支援するための何か仕組みみたいなものも、できれば区としてやっていってもらえたら良いと思いました。例えば、他のまちづくりをやっている方々に受賞者の活動を伝える場を設ける、また、特に場所づくりに関わることなので、区の助成制度としてハード整備への助成をするような仕組みを整えていくなど、大田区景観まちづくり賞と一般的なまちづくり支援の仕組みを連携させることができれば理想的だと感じました。

3 つ目です。先ほど呑川に関心がないというお話がありましたが、なぜかを考えると、区民が関わりにくい川なのだと思います。このまま放っておくと、呑川で活動する団体、景

観を良くする活動が自然には育たないのではないかと思うので、こちら側から何か仕掛けないといけないと思います。呑川はシンボリックな川で、良い環境になってほしいと思いますが、環境改善が難しいとも思います。区だけが頑張れば良い問題でもないと思うので、例えば、呑川を舞台とする景観づくりのアイデアを募集するなど、呑川への関心を高めていくというようなことも考えられると思います。

(野原氏)

- ・景観づくり活動部門のヒアリングでは困りごと、課題があることが分かりました。惜しい活動もたくさんありました。そういう意味では、少し背中を押してあげられるということを考えていくのも今後の課題であると思っています。

横浜市では、「ヨコハマ市民まち普請事業」という、ハード整備に関する市民の提案を審査し、選ばれたものが助成を受けるという仕組みがありますが、何か違った形でも後押しできるものがあると良いと思います。

(加藤氏)

- ・2点お話しします。1つは今回の受賞結果をどう活用するかということです。多くの区民に認識してもらうために、情報を発信し続けることが必要だと思います。これまでプレートを作成し現地に設置するなど、区民の皆さんの目に見えるようにすべきと申し上げてきました。そういうプレートの存在によって、町歩きをしている人などが賞の存在を口コミで広げ、深めてくれると思います。次回の賞の実施の際には予算を確保し、それぞれの現地近くにプレートを設置できるようにしてほしいです。

2つ目は、受賞者に表彰状が授与されましたが、その活用方法として、受賞者の皆さんの一番目立つ場所に置き、こういう賞をもらったということをアピールしてほしいということです。今回の表彰状はデザイン的にも凝ったものだと聞いていますので、多くの人に見ていただける場所に、ぜひ飾っていただきたいと思っています。

その他、小冊子のような形にし、できるだけ多くの方に配布することも考えられます。次年度以降も続ける場合、毎回冊子をつくったり、合本をつくったりして広めていけば、景観に対する関心も高まるのではないかと思います。

継続して実施されると思いますが、今後の期待としては、この賞だけ単体で実施するのではなく、オール大田で実施できないかと思っています。似たようなイベントとして、区長からも話がありましたが、大田ユネスコ協会が実施する「大田地域遺産写真展」、大田区観光協会や広報課が実施している「大田いきいき写真コンクール」などと一体化し、大田区の良いところを見つける、大田区最大のイベントにできれば良いと思います。多様な大田区という意味で、未来創造部門賞、歴史保存部門賞、自然調和賞、にぎわい部門賞などを設けていけば、皆さんの関心も高まるのではないかと思います。

また、最後に、できるだけイベントには区民が参加できるようにして、自分たちの地域でこういう良いものがあると自慢し合う場になれば良いと思います。それぞれの地区が自慢する内容も分かり、良いところを取り入れることや交流も広まります。地域ごとの自慢大会をオール大田でやれば更に盛り上がると思います。

(荘氏)

- ・大規模開発など事業者が主体になっているようなところ、あるいは元々歴史や伝統がある、いわゆる名所旧跡のようなところというのは、もともと不特定多数の人に頻繁に見られる、

注目されますので、景観として維持・保全すべきか、活用・発展すべきか、色々あると思いますが、景観としてそれなりに成り立ち、ある程度放っておいても大丈夫であるというような安心感があると思います。それに対して一見すると、何ら特に景観資源もない何でもない眺めなど、それが生活空間であったりするのかもしれないですが、ふだん着の景観のようなところは、それほど頻繁には不特定多数の人は注目してくれないし眺めてくれないので、放っておいたらどうなってしまうのかと思います。先ほど、「紅葉通り」の受賞者の方もコメントなさっていましたが、ふだん着の景観をきちんと評価する、スポットライトを当てて知らしめるというのも景観賞を含めてやっていかなければいけないことだと思います。そういうことを期待しています。

それから、もう1点は、景観というのは、五感で感じるものではないかという話が先ほどありましたが、私も景観は空気のような、ふだんは余り意識しないけれど、あつて当たり前なものではないかと思っています。心地よい景観というのは、そこに身を置く人たちにとっては、無意識のうちに安心感をもたらすものだと思います。何か納得づくの安心感ではなく、無意識のうちに安心できることだと思いますし、景観を考えていくということは、安心感という快適さのある空間そのものにつながっていくのではないかと思っています。例えば、路上に散乱しているような看板や広告物を整理する、ブロック塀を生け垣に代えて、緑を増やしていく、電線を地中化するといったことは、見た目が見えやすくなるという意味ではもちろん景観的な意味合いもありますが、それだけでなく、防災など安心・安全にも寄与していくことがあるのではないのでしょうか。そう考えると、景観賞というのは、景観だけではない広がり、可能性を秘めているのではないかと思っています。そういったところも今後ぜひ景観まちづくりの一環としてつながっていくと良いと考えています。

(平澤氏)

- ・受賞にふさわしい賞金があると良いと思いました。

また、観光と言えるのかどうか分かりませんが、景観賞巡りのようなことができると良いと思います。

景観づくりなど、色々な参加を通じて、結局は地域コミュニティの充実につながる気がします。景観だけでなく、それから波及するものが大事で、人間関係がそういうものをつくれます。それから、自分たちのまちを自分たちで良くしていこうという結果として、良い景観が生まれるのではないかと思います。そこを目指していくことになると思います。

今後の景観賞については、周知の仕方、あるいは掘り起こしの仕方に目を向けて、当面はそういうところから入って、受賞者のノウハウなどを勉強し、自分たちの地域のまちづくりに生かしていくことが必要だと思います。

(杉山氏)

- ・受賞結果を生かすことを考えていましたが、受賞者の皆さんには帰ったらぜひ受賞パーティーをやってほしいと思います。ご近所に声かけて、ぜひ自慢してほしいと思います。

楽しくまちに関わっていくということを広めてもらえたらうれしいです。

モダニズム建築の応募がありましたが、大田区の住宅街開発は、他地区と少し違う歴史を持っていると思っています。東京の住宅地開発に寄与した建築家の自邸がまだ残っていますが、そのように本当に空気のようなだけ、大田区の魅力を支えてくれている誇りに思える景観などベースとなっているものをどんどん掘り起こして、賞ではないが、大田区らし

い景観として認定していくようなことができれば良いと思います。例えば、小空間、看板、公共事業など、色々な視点があるので、それらを話題にできるようにしてもらえたらと思います。関わる人はこれからもっと大変になりますが、固定的ではなく、成長する景観まちづくり賞になれば良いと願ってやみません。

〈会場からの意見〉

（大田区観光協会）

- ・パネラーから、受賞された景観を観光に生かしてはどうかと意見がありました。大田区観光協会では、「まちめぐりガイド」養成講座を開催し、50名程度のガイドがいます。ガイドコースのツアーも実施しているので、景観賞と連携して、皆さんに広める活動をしていきたいと思っています。

〈まとめ〉

（野原氏）

- ・魅力的な景観の再発見の場として、第1回大田区景観まちづくり賞を位置づけることができたと思います。また、これを今後どうやって生かしていくかという課題があると思います。

実はこういった表彰は、他の自治体でもたくさん実施されています。

横浜市で、「横浜・人・まち・デザイン賞」をこれまで7回実施しております。街並み景観部門と地域まちづくり部門があります。景観を飛び越え、地域のまちづくり全体を表彰しているので、大田区になじまないかもしれませんが、試行錯誤しています。横浜市でも土木構造物や商業施設など色々なものが受賞していますが、最近では、例えば、実は蒲田にもある防火帯建築という1950年代の街並みが評価されていたり、特徴的な例では、ラッピングバスもあり、山手地区ならではのラッピングバスをみんなで考えるとといったものが街並み景観部門として評価されています。

今後、どういったものを広がりある大田らしい景観として考えていくのかというのは、今後、我々も含めて大きな課題であると思っています。

福岡市は26回開催していますが、色々な景観があって、結構何でもありますが、彫刻やバスなどもあります。また、デザインングという展示会も受賞しています。さらに面白いものとして、ウェブマガジンがあり、賞の審査委員とのツアーも行われたりしています。

世田谷区は、表彰というより、地域の風景資産を選んでいますが、推薦した人自らがこれからどういう風景づくりをするのかという計画をつくり、実行しなければいけません。

今後、大田での景観づくりをどう考えていくかというときに、今回は終わりじゃなくて、まさにここがスタートで、その広がりをどうやってつくっていいのかということが、今後の豊かな景観づくりの勝負になるのではないかと思います。今回の受賞者の皆さんは引き続きそれぞれの景観を良くしつつ、さらに周りに景観づくりやその魅力を伝えていただく活動をしてもらいたいと思います。また、それ以外の皆さんも、豊かな景観づくりをしていただいて、大田全体で大田の魅力をつくってけると良いと思っています。

(2) 総括

○概要



中井 検裕氏

(東京工業大学環境・社会理工学院教授)

第1回大田区景観まちづくり賞を受賞された皆さんにお祝い申し上げたいと思います。おめでとうございます。多数の応募をいただき、応募された皆さんに大田区景観審議会として感謝を申し上げたいと思います。誠にありがとうございました。

景観審議会は、最初は大田区景観計画を策定しました。こちらは規制やルールについて、簡単に言うと、マイナスを増やさない仕事なのですが、そちらの方を主にやってきているわけですが、それだけだと、なかなか景観は良くなっていかない。普及啓発、あるいは、良いもの褒めていく活動でプラスを増やしていくことが非常に大事だということを経験審議会の中でも、色々と議論してきて、今回第1回大田区景観まちづくり賞を実施できることになりました。そういう意味では、景観審議会として、大田区景観計画を着実に運用していくことのほかに、こういう活動をしていくことで両輪が回り始めたと思っています。

今回の景観まちづくり賞は2部門あります。街並み景観部門は物件、建物、あるいは街並みという「物」が対象になっています。良好な景観を維持していくためには、オーナーや事業者、設計者、関係者の皆さんが努力していかないと、なかなか良い景観が保たれません。景観づくり活動部門は、対象は活動ですが、その結果良好な景観ができているということは、本日の受賞者の例でよく理解してもらえたと思います。その意味では、2つの部門は、いわば1つのコインを表と裏から見ているという関係になっていると思います。景観とそれに関わっている人々の志、あるいは努力、活動が、物の景観と一緒に地元の価値を上昇させているのが今回の景観まちづくり賞ということで、景観賞ではなくて、あえて景観まちづくり賞と大田区が名前をつけている理由がそういうところにあります。そういう意味では、第1回受賞の7件は、景観まちづくりの真骨頂を実現されていると思いました。

議論でもありましたが、大田区の景観は多様です。しかも、大部分はいわゆる生活景観というもので、なかなかその特徴をつかまえにくいと思います。こういうところの景観づくりはなかなか難しく、一番難しいのはあるべきイメージをつくりにくいということだと思います。しかも、大田区は東京23区の一翼を担っているということもあって、非常に変化が激しく、ダイナミックに変わっていくまちのあるべき景観というのは、ど

ういうものなのかというのは、なかなかつかみづらく、専門家の中でも意見が色々と分かれると思います。結論から言うと、変わっていくまちは変わりながら良くしていくということしかないと思っています、一つ一つ出てきたものを場当たりの良くしてことも大事ですが、それだけではいけなくて、足元ばかり見ていると、なかなか前に進めないように、少し視線を前に向けて、遠くに向ける部分が必要だと思っています。視線を遠くに保つためには拠り所が必要で、この地域はどういうイメージを持つべきか、あるいは、地域が大きく変わっていきそうだけど、どういふ変え方をしていけば良いのかというときに、景観まちづくり賞を受賞されたようなものが大きな拠り所になると思っています。よりどころを多くしていくことが大田区の景観まちづくりの発展の上で重要なのではないかと感じました。

(3) アンケート結果

①属性

○年齢・性別

年代	男性	女性	合計	割合
10代	0	0	0	0.0%
20代	1	0	1	5.3%
30代	3	2	5	26.3%
40代	0	0	0	0.0%
50代	2	1	3	15.8%
60代	6	0	6	31.6%
70代以上	1	2	3	15.8%
不明	0	1	1	5.3%
総計	13	6	19	100.0%

○住所

住所	合計	割合	自由記入回答
区内	10	52.6%	
東京都内	5	26.3%	・目黒区（2名） ・港区（1名）
その他	4	21.1%	・川崎市（1名） ・横浜市（1名）
総計	19	100.0%	

○職業

職業	合計	割合
会社員	3	15.8%
公務員	6	31.6%
自営業	5	26.3%
学生	0	0.0%
主婦	3	15.8%
その他	2	10.5%
総計	19	100.0%

○職種※

職種	合計	割合
建築	3	15.8%
都市計画	1	5.3%
まちづくり	5	26.3%
その他	11	57.9%
不明	2	10.5%
総計	19	100.0%

※2名複数回答があったため、
割合の合計が100%にならない。

【その他】の自由記入意見（2名が回答）
・無職（2名）

【その他】の自由記入意見（6名が回答）
・無職 ・景観担当 ・金融 ・飲食 ・議員 ・造園

②イベント情報の入手先

入手先	合計	割合
①おおた区報	4	21.1%
②大田区 HP	3	15.8%
③チラシ	2	10.5%
④友人・知人	8	42.1%
⑤その他	2	10.5%
総計	19	100.0%

【⑤その他】 のシンポジウム情報の入手先（2名が回答）
・区役所でのチラシ入手 ・土木学会メーリングリスト

③シンポジウムへの参加理由（複数回答）

参加理由	合計	割合
①大田区景観まちづくり受賞者の関係者であるから	5	26.3%
②大田区景観まちづくり賞に興味があったから	8	42.1%
③パネルディスカッションのテーマに興味があったから	5	26.3%
④パネルディスカッションの出演者に興味があったから	5	26.3%
⑤大田区の景観全般に興味があったから	5	26.3%
⑥その他	2	10.5%

【②、④その他】 の自由記入意見（1名が回答）
・第1回だから興味があった。
【②、⑥その他】 の自由記入意見（1名が回答）
・景観をより学びたいから。

④大田区景観まちづくり賞について

○大田区景観まちづくり賞の認知

参加理由	合計	割合
①知っていた	12	63.2%
②今日参加して初めて知った	7	36.8%
総計	19	100.0%

○第1回大田区景観まちづくり賞への応募について

参加理由	合計	割合
①応募した	4	21.1%
②応募したかったが、できなかった	2	10.5%
③応募するつもりはまったくなかった	7	36.8%
不明	6	31.6%
総計	19	100.0%

【②応募したかったが、できなかった】の自由記入意見（1名が回答）
・写真がうまく撮れないから
【③応募するつもりはまったくなかった】の自由記入意見（1名が回答）
・他区の景観担当だから

○次回の応募について

参加理由	合計	割合
①応募してみたい	12	63.2%
②応募したくない	3	15.8%
不明	4	21.1%
総計	19	100.0%

【①応募してみたい】の自由記入意見（1名が回答）
・良い案件があればしたい。
【②応募したくない】の自由記入意見（2名が回答）
・応募、受賞することによって、どのような価値やメリットがあるかが分かれば良いと思う。
・できない。応募者は表彰されないが、他区の景観担当者が応募するのはどうかと思うから。

⑤大田区の景観について

○大田区の景観で好きなところ、悪いところ

項目	自由記入意見
大田区の景観の好きなところ (アンケート回答者 19 名のうち、18 名が回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・洗足池や多摩川台公園、せせらぎ公園に木々が多い。 ・住みやすい。 ・水辺の多いところ。 ・地域毎の特性を持つ。 ・高級住宅街と下町の対照的な景観。 ・台地によって形成された歴史ある住宅街。 ・区民に馴染んでいる街並みや建物を保存して活用しているところ。 ・小さな自然。 ・色々な季節の花が見られるところ。本門寺、養源寺。 ・他区と比べ、景観についての意識が高く、街並みにあった道路整備がされているところ。 ・昔ながらの商店や美しい自然、歴史を感じられる建物、洗足池。 ・昭和の香りが残っている。 ・昔風な街並み、緑の多いところ、寺町。 ・都市活動や生活の様子が表れた景が多彩。 ・空港、大田区総合体育館。 ・多摩川台公園。 ・羽田周辺の水と飛行機の景観、緑多い多摩川台周辺の景観、洗足池の都市の中の水辺の景観。
大田区の景観の嫌いなところ (アンケート回答者 19 名のうち、11 名が回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路幅が狭く、家が混み合っていること。 ・道が狭い。 ・蒲田駅前など広告が派手で大きすぎる場所。 ・景観条例に強制力がなく、景観が維持できないケースがある。 ・新しい開発によって、無機的になってしまったところ。 ・電線地中化の遅れ。 ・区が植え付けたつつじの手入れが悪くて、環境を悪くしている。 ・まだまだ全体的には行き届いておらず、腐食した構造物等も多く残っているところ。 ・ゴチャゴチャしているところ。 ・新しくなりすぎている。 ・多様な水辺や数が多い駅をもっと活かせると良い。

○大田区の景観維持向上・改善策として重要だと思うもの

選択肢	合計	割合
①景観に関するルールづくり	2	10.5%
②区民や事業者への普及啓発	6	31.6%
③景観に関する区民主体の活動等ソフトに対する経済的な支援	3	15.8%
④景観に関する建替え等ハードに対する経済的な支援	2	10.5%
⑤公共事業（道路や河川、公共建築等）のデザイン向上	5	26.3%
⑥その他	1	5.3%
不明	2	10.5%
総計	19	100.0%

※1名複数回答があったため、割合の合計が100%にならない。

【⑤公共事業（道路や河川、公共建築等）のデザイン向上】の自由記入意見（1名が回答）
・意味のない花壇は歩道を狭くして、手入れが悪いつつじは取った方が良いと思います。歩道を広くするか、花壇にするならもっと考えてほしい。
【⑥その他】の自由記入意見（1名が回答）
・SNSで多くの人が写真他発信しているが、区ではどうキャッチし、評価しているのか。

⑥大田区の景観のあり方やシンポジウム、大田区景観まちづくり賞に関する自由記入意見
(アンケート回答者19名のうち、10名が回答)

自由記入意見
<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動にもっと力を入れてほしいと思う。 ・見るだけの価値をもった特色のある風景に住む人への安全（たとえばバリアフリー、防災）の視点を入れてほしいと思う（ただ見た目が良いというだけではなく）。 ・一般の人からの投票などもあれば、もっと広まるのではないかと。本当に区民に人気あるものが評価される。 ・動画での応募はできないのか。写真撮影に自信のない人はどうしたら良いか。 ・景観づくり活動部門の応募が18件もあったのは素晴らしいことだと思う。 ・シンポジウムは思いつきの発言が多く、馴れ合いになりがちなので、優秀な委員の良さを消してしまうと思う。論点もばらつくので、1名の先生の講演の方が有効と考える。 ・事務局は初めての事務で大変だったと思う。その中でこの結果は本当に素晴らしいと思う。どうもありがとうございました。 ・高さ制限だけではなく、例えば、住宅地の分割規制等、他区も導入している規制を導入し、景観を維持すべき。 ・とても良い賞だと思う。毎年、テーマを作ってはどうか。 ・景観に貢献するような古い建物の保全のための経済的なサポートや耐震のためのサポートがあると良い。 ・歴史との関わりの啓発など、景観の価値を伝えるための活動も必要。 ・アートの意識が強くある方が、流動性が生まれやすい。若い人の注目を引くPRが必要。 ・とても良い取り組みだと思う。景観への関心が高まり、より景観を残そうという気運が高まると大田区の価値が上がると思う。 ・継続して取り組んでほしい。 ・景観づくりの物語を紹介する冊子などができると良い。 ・公開イベントとして展開できると良い。

2. 景観パネル展

- ・平成 28 年 5 月 17 日（火）～26 日（木）まで大田区本庁舎 3 階にて、平成 28 年 5 月 19 日（木）～26 日（木）まで大田区本庁舎 1 階にて、景観パネル展を行いました。
- ・その他、第 1 回大田区景観まちづくり賞パンフレットなどを配布しました。

○展示内容

①第 1 回大田区景観まちづくり賞に関する内容

- ・賞の概要（賞の趣旨、募集部門と推薦のポイント、募集及び審査過程について、審査について）
- ・応募状況及び受賞内容について（今回の応募状況、受賞内容、位置図）
- ・街並み景観部門・景観づくり活動部門の総評
- ・受賞物件（5 件）・活動（2 件）の講評
- ・街並み景観部門落選物件（一部）の紹介

②第 1 回大田区景観まちづくり賞表彰式及び景観シンポジウムチラシ

③大田区景観計画に関する内容

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ・景観特性に関する図 | ・景観形成の基本方針方針図 |
| ・景観誘導の考え方 | ・市街地類型及び景観資源の種類と位置図 |
| ・景観形成重点地区の概要と位置図 | ・各景観資源位置図、主な景観資源の写真 |
| ・景観形成重点地区方針図・主な写真 | ・色彩について |
| ・景観重要公共施設の位置図と写真 | ・届出対象行為及び規模一覧、届出の手順 |

④これまでの届出等の実績

⑤景観マップ及びまちの緑の図（18 特別出張所と空港臨海部）

⑥建築物マップ（区全域にある景観資源のうち、建築物等の位置と写真を示したマップ）

○展示風景（3 階）



○展示風景（1 階）

